



物のねうちとお金のねうち (戦後、復帰後、コロナ後)

6月のごあいさつ

山内公認会計士事務所
2020年6月1日(月)

コロナ後の経済はどうなるのだろうか。

経済の専門家でないので、理論的にも実際にも解らない。応仁の乱後ではないが、**第二次大戦前後、沖縄復帰前後と経済の激動期**をおぼろげながら体験して、貨幣価値の変動による社会の変化を実感してきた。

父は丁稚奉公、軍隊生活など苦労したようだが、性格は明るかった。お酒が大好きで、貯金と保険は嫌いだった。軍隊などで貯めた**戦前の貯金や保険が、戦後、無価値になった経験**だと思う。

それもそうだろう、**戦後の物価上昇率は100倍**とも言われ貨幣価値が激減した。そのとき、ある現大手スーパーは、あるだけの現金を集めて商品に換え、現金でなく**実物にシフト**して、混乱期を克服し後の大をなした。

沖縄の復帰前後にも似たようなことが起こったようだ。1973年の3月に東京から沖縄へ移住したが、その当時の沖縄の人の話では、**復帰前の1ドルは、復帰後の1,000円札**よりもはるかに価値があったと言う。貨幣価値の変動で損をした人、得をした企業などの話も実例として何度も接した。

復帰直前に**借金をして不動産を買った企業は、借金の目減りと、不動産の値上り**で大きな利益を得た。借金の負担が激減して企業を潤した。めったにはない大きな経済変動の結果の偶然のような成功例であった。

戦後と復帰後の二つの激動期が教示しているのは、**金融資産と実物資産の時点的な価値の変化とその影響**である。

コロナ前後も大きな経済変動が起きるだろう。ここ数年の安部総理や黒田総裁の貨幣膨張策、経済緊急対策など貨幣量が増しているのは確実だ。素人考えにも**貨幣価値が変動**するのを予感する。勿論、インフレは物不足によって起り、日本は物不足ではない。だから、同じとは言えないかもしれない。

最近、緊急融資について、企業から相談を受けることが多く、従来は借金反対であったが、今回は借金すべきと答えている。

沖縄の人は、戦後、復帰後と二度もお金の激動期を経験しているので、賢く対応して欲しい。こんな折に、企業間の格差は大きくつくようだ。